



まねん

KKR 広島記念病院広報誌

第 8 号

発行所 〒730-0802
広島市中区本川町 1-4-3
国家公務員共済組合連合会
広島記念病院
TEL (082) 292-1271

広島記念病院ホームページURL <http://www.kkrhiroshimakinen-hp.org>

広島記念病院の戦略

広島記念病院
院長 中井志郎

近年、世界的に多くの天変地異が起っています。地球規模の温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨等、地球の奥底から、現代社会の環境汚染に対して怒りを表しているがごとくです。3 月 25 日より開催されている“愛・地球博”では失われた自然の回復を重要なテーマとして、地球に優しい環境を唱えています。

一方、日本の医療保健、福祉の方向性は見え隠れするも、目標地点は今一つはっきりしていません。医療機関は、急性期、中間回復期（リハビリテーション）、慢性期療養、介護保健、かかりつけ医制度の枠組みの中でどの範疇で生きて行くか選択しなければならない状況です。



当院の医療への取り組みは、急性期病院を指向し機能を特化してきました。

すなわち施設としての目標は、

- ①急性期特定病院
- ②地域支援病院
- ③がん支援病院
- ④臨床研修指定病院
- ⑤日本医療機能評価機構の認定病院

の五つ星を目指しています。

また、当院が掲げる医療の目標は、

1. 患者の満足
2. 紹介医の満足
3. 互いの職員の満足
4. 互いの医療経営の安定（満足）

を得ることです。情報の共有化（紹介・逆紹介率のアップ）、効率化はお互いの医療機能を分担することです。

“医の心は癒しの心です” 命を大切にし、迅速で小回りのきく高い水準の医療チームを院内外に組み、個別性を持って、患者の皆様が安心して受診できる安らぎの環境、及び

満足と信頼が得られる最良の医療サービスを提供できるように、病・病、病・診連携に日々努力しています。

紹介医の先生方と、より密接な情報交換と連携に取り組み、一層の機能分担を明確化していくべきと考えています。ご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



新任医師紹介

外科医師
森藤雅彦



平成17年4月から広島記念病院外科に赴任いたしました森藤雅彦です。平成3年に広島大学を卒業し、第一外科（現病態制御医科学講座 外科学）に入局、その後は広島総合病院、広島県病院にて研修・臨床をおこなってきました。平成10年から大学にもどり博士号取得し、主に肝胆膵領域での臨床および研究をおこなってまいりました。慢性膵炎や胆石などの良性疾患から胆膵系腫瘍性疾患を中心とした外科治療に携わるかたわら、個人的には膵手術後の膵機能について興味を持ち、呼気試験を応用した術後膵機能評価など臨床に直

結した診療と研究、学会活動をおこなってきました。

今後もこれまでの経験を活かして、地域の患者様や先生方のニーズに応えるように、手術や診療にあたっていきたいと考えております。

今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

耳鼻咽喉科医師
堀部 よし恵



平成3年広島大学卒業後、同年同大耳鼻咽喉科医局に入局しました。その後広島大学付属病院、呉共済病院で研修後、広島大学付属病院、マツダ病院、同仁病院（沖縄）因島医師会病院および広島赤十字・原爆病院で臨床をさせていただきました。

特に、日赤に勤務させていただいた7年間は入院は頭頸部領域の腫瘍性疾患を中心に手術症例の治療にあたり（特に甲状腺腫瘍）外来では耳鼻咽喉科疾患一般の診療を行っていました。耳鼻咽喉科勤務医としてこの病院に与えられた役割を見

極めつつ、まだまだ発展途上の自分の能力を高める様努力していきたいと考えております。御指導御鞭撻の程よろしくお願いいたします。

C 型慢性肝炎の治療の進歩

広島記念病院

内科 中村利夫



C 型慢性肝炎の治療は近年急速に変化・進歩しています。C 型慢性肝炎にインターフェロンが一般に使用されるようになって約 14 年が経過しました。この間に C 型慢性肝炎の診断・治療に関して種々の事実が明らかになってきましたので、振り返って見たいと思います。

C 型慢性肝炎にインターフェロンが使用された初期にはインターフェロンの使用期間が 6 ヶ月と制限されていました。この時期にはインターフェロンによる C 型肝炎ウイルスの消失率は約 30% であり、副作用も比較的多かったのでインターフェロンの使用を躊躇される先生方も多かった訳です。その後の研究により C 型肝炎ウイルスにインターフェロンが効きやすい 2 型とインターフェロンが効きにくい 1 型が有ることが判明しました。また C 型肝炎のウイルス量に関しても研究が進み、ウイルス量が少ない患者さんではインターフェロンが効きやすく、ウイルス量が多い患者さんではインターフェロンが効きにくい事も明らかになりました。そのためウイルスのタイプが 2 型の患者さんやウイルス量が少ない患者さんへは積極的にインターフェロンが使用されました。しかし残念なことに日本人の C 型慢性肝炎の患者さんは 1 型で、ウイルス量が多い方が多く、この条件ですと 6 ヶ月のインターフェロン投与により C 型肝炎ウイルスが消失する可能性が 2-3% ですので C 型慢性肝炎へのインターフェロン投与が下火になりました。

その後難治性（1 型、高ウイルス量）C 型慢性肝炎への治療に関して研究が進み、平成 13 年末にインターフェロン α + リバビリンが出現しました。この治療により難治性 C 型慢性肝炎におけるウイルス消失率が約 20% になりました。そして平成 16 年末にペグインターフェロン α + リバビリンが使用できるようになり、難治性 C 型慢性肝炎におけるウイルス消失率が約 50% になりました。治療効果が向上し、ペグインターフェロンは週一回の投与ですので治療を受け易くなりましたので、この治療を希望して外来を受診される患者さんが増加しています。インターフェロンの副作用を心配される患者さんもおられますが、インターフェロンによる副作用は軽症のものが大部分ですし、まれな重篤な副作用もほとんどが可逆的ですので、C 型慢性肝炎の患者さんがおられましたら一度は当院内科へご紹介頂ければ幸いです。



病診連携室だより

☆ 平成17年4月1日よりFAX受付患者様の予約診療を開始しました。

受診希望日の前日午後4時30分までにFAX送信してください。

病診連携室より紹介元医療機関へお電話し、予約の調整や予約日時の連絡先確認等させていただきます。

なお、検査（内視鏡・超音波・CT・MRI等）が必要な場合は、従来どおり、各科外来にご予約いただきFAX送信してください。

☆病診連携室専用電話がつきました。

専用電話 082-503-0730

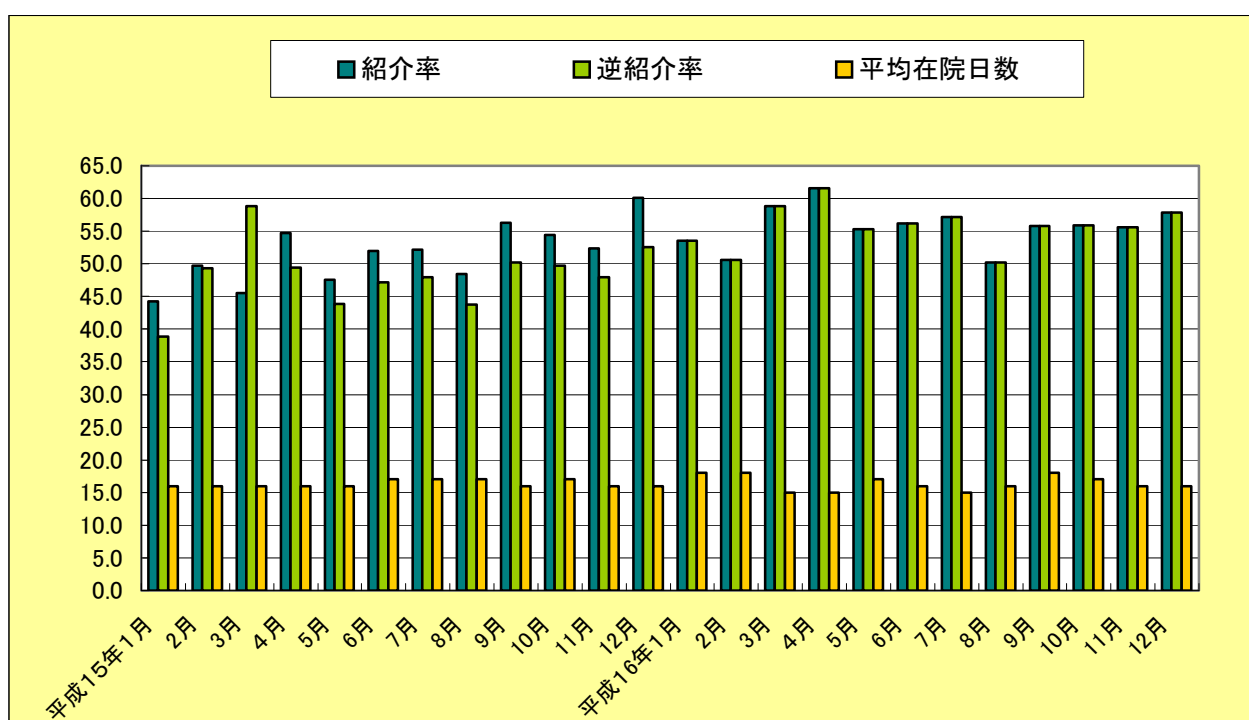
専用FAX 082-503-1010

当院でFAX受信時に患者様の情報が第三者の目に触れないよう専用FAXを設置しております。送信の際は専用FAXへ送信いただきますようお願い致します。

また、当院からの受診報告はFAX送信時2人で行い送信先の間違いが起きないように努めておりますが、FAXでの送受信をご希望されない場合はお電話での対応も考えておりますので病診連携室へご連絡ください。

担当：今中、 中河内、 清水

当院の紹介率と逆紹介率及び平均在院日数の推





記念病院でスーパーローテとして外科を研修させて頂きました。3ヶ月という短い期間でしたが、密度の高い研修を送ることが出来たと思います。大学で半年間、内科をローテした後には外科を研修することになりましたが、外科と内科で画像及び検査でもとらえ方が違う点など、両方を回ることによって気が付いた点が出てきたので、内科を回った後に外科を回れたのは非常に運がよかったと思います。

記念病院での外科研修は、手術件数も多く、大学では接することが出来なかった症例も経験できた点もよかったと思います。また、大学ではほとんどターミナル期の患者様と接する機会がなかったので、そのような症例を受け持った場合の問題点等、考える部分が多く今後の接し方及び取り組み方への足がかりになったと思います。手技に関しても、現場で数多く見学でき、また、実際に行うことが出来ました。処置を行う時には、先生方が指導してくださったので、安心して行うことが出来たのは自分にとって有意義な経験をつむことが出来ました。

気になった点としては、院内での連絡を取る手段として、ポケベルからPHSへの移行期という説明でしたが、病棟及び先生方との連絡が取りにくかったことです。病棟での実習を行う中で、やりにくい部分が多く、次回研修医を含め支給した方がいいと感じました。

医局においては、病院の規模もあるのですが、様々な科の先生方と接することができ、色々な意味で刺激のある研修生活を送ることが出来たと思います。また先生方も科が違うのですが、親切に接して下さったので気を遣うことなく質問等しやすかったのも良かったと思います。

最後になりますが、院長先生をはじめ、外科の先生方、病院関係者の方々には不慣れな研修医に対して親切にして頂き、有難うございました。ここで研修を行えた事を誇りに、またここでの経験を今後、現場に活かしていきたいと思っております。本当にありがとうございます。

自分は広島大学病院で半年間、内科(1 内科、2 内科)を研修した後、記念病院で外科を研修させていただくことになりました。当初は全く勝手の分からない外病院に3ヶ月間だけ、しかも外科の研修に行くことにとまどいを感じていましたが、今ふりかえってみるとこちらで研修できて本当によかったと思えます。広大では診ることのなかったであろう疾患を診れたことや、手術の件数が多いこと、外科的な処置を積極的にやらせてもらえたことは、自分にとって大きな自信と力にな



ったと思います。外科の先生方も優しい、面倒見のよい先生方ばかりでしたが、時に厳しく指導していただいたことが、とても勉強になりました。また、記念病院は大学病院に比べ、看護師さんがよく働いて下さり、研修医の雑用は減りました。それに甘えてしまって、点滴の静脈確保などはほとんどといっていいほどやる機会がなかったですが……。病院全体の規模も小さいですから、医局の中で他科の先生方とも仲良くでき、院外の活動(テニス部やバスケット、ボーリング大会など)に誘っていただけたことも、大学病院にはない楽しさを味わうことができました。

少し気にかかった点は、以前も医局会で発言した女子の更衣室や当直室がないこと、そしてポケベルの支給がなかったことです。一点目については、今後やはり女性医師が増えてくるでしょうから、職員の安全面だけでなく記念病院の評判のためにもそういった設備は必要であると思います。二点目は、3ヶ月間だけということや、ポケベルからPHSへの移行期であることが重なったという事情もあるでしょうが、ポケベルがないことで、院内での連絡手段がなく、また患者さんを担当させてもらうという点でも、何度か不都合を感じました。

全体的にみて、充実した3ヶ月間で、あっという間に過ぎ去ってしまい、あと3ヶ月くらいでも、もう少し研修したかったという思いもありますが、スーパーローテーションの枠の中で様々な科で研修するためには、適当な期間なのかもしれません。外科の先生方をはじめ、他科の先生方、看護師さん、職員の皆様には大変お世話になりました。書面ではありますが、お礼申し上げます。1月からは、広大病院で救急部をまわるようになっておりますが、こちらで学んだことを糧にして、自分が理想とするような医師になれるよう努力していきたいと思います。3ヶ月間、ほんとうにありがとうございました。



広島記念病院での外科研修を終えて

平成 17 年 3 月 31 日
大谷直嗣



私は平成 17 年 1 月から 3 月までの 3 ヶ月間、広島記念病院の外科で研修をさせて頂きました。研修医 1 年目の年、これまでは広島大学病院救急部・吉島病院内科・大学病院第 1 内科で 3 ヶ月毎に研修してきました。大学病院のスーパーローテーションの魅力の一つに色々な病院で研修を経験することができるということがあります。中でも、外科の研修を記念病院で出来るということは、私にとっては大変魅力的で、学生の時に研修先を選ぶ際にも参考にしたほどでした。

実際に記念病院に来て多くの症例を経験することができたことは本当に自分の力になりました。最初は市中病院とそれまでいた大学病院との雰囲気ややり方の違いに戸惑いを感じた部分もありました。大学病院のようにカンファレンスが頻繁に行われることはないし、緊急の手術など良く状況が分からないまま手術につくことなどもありました。正直なところ、これで大丈夫なのだろうかと自分自身不安に感じた時もありました。けれども、記念病院は大学病院などの大きな病院と違い、中規

模病院の特色を生かしたフットワークの軽さがあり、また、執刀医の先生がどの先生も本当に経験豊富だったからこそ何でも手術をしていたのだな、ということを経験になって改めて強く感じました。まだ何の経験もない私たちにとっては、経験豊富な先生方の手術を数多く見させていただき、今のスタンダードがどういうものなのかということを経験できたことが一番の収穫でした。この 3 ヶ月という期間は他の病院では味わうことのできないとても濃密な時間だったと思います。

3 ヶ月毎に病院を変わるというのは、実際に経験してみると慣れるまでが大変で、慣れた頃に異動するといった感じもあり、新しい病院に行くたびにストレスを感じていたのですが、こうして研修を終えてみるととても名残惜しい気持ちになります。最後に色々と指導していただいた（叱られた？）先生方に「良くやった、良い医者になれよ」と言われたのが一番嬉しかったことでした。

厳しくもあたたかく教えてくださった先生方、患者さんへの接し方や処置・手術助手のやり方を優しくそっと教えてくださった看護師の方々、色々と面倒をみていただいた事務の方々など記念病院で多くの方にお世話になりました。短い間ではありましたが本当にどうもありがとうございました。ここでお世話になった方々にいつか恩返しができるよう、これから努力していこうと思いますので暖かく見守っていただければと思います。



広島記念病院外科研修

17.3.31

研修医 中川直哉



今まで広島大学病院で、救急部、内科(一内科)、吉島病院で内科を研修した後、記念病院で外科を研修させていただくことになりました。外の病院では吉島で 3 ヶ月間研修しましたが、記念病院は病院も大きく、想像以上に忙しくとまどうことばかりでした。しかし、将来外科医を目指す自分にとっては本当に意義のある 3 ヶ月となりました。手術の件数が多いこと、外科的な処置を積極的にやらせてもらえたことは、自分にとって大きな自信と力になったと思います。また、技術的なことだけでなく記念病院の個性ある先生方に出会えたこと、教えてもらったことは今後の医師人生においてかけ

がえのないものとなりました。

不満な点はありません。ホントに自分にとってはこの 1 年間の中でもっとも忙しく、また勉強になった 3 ヶ月でした。将来は外科で頑張っていこうと思っています。また機会があれば中井先生はじめ、ここで出会えた先生方にもう少し成長した自分にまた指導のほどをお願いしたいと思っています。

3 ヶ月短い間でしたがありがとうございました。

他科の先生方、看護師さん、職員の皆様にも大変お世話になりました。何もできない自分でしたが優しくご指導頂き、ほんとうにありがとうございました。

第 30 回病院学会に参加して

国家公務員共済組合連合会 広島記念病院
介護老人保健施設 記念寿
介護福祉士 小島 宮子



平成 17 年 2 月 20 日広島医師会館にて広島県病院協会主催による「広島県病院学会」が開催されました。

今学会は、厚生労働省医薬食品局の阿曾沼慎司局長による特別講演「日本の医療と医療保険制度改革」の拝聴と、広島県病院協会会員が応募した一般演題、口演の部 37 題・ポスターの部 9 題、その他誌上掲載 5 題の発表で構成されていました。

今回私は、演題『お茶ゼリーによる水分摂取へのアプローチ』で口演発表者として初めて参加させて頂きました。「記念寿」で摂食・嚥下障害により水分の経口摂取が困難な利用者に対し、濃度 2 %の「お茶ゼリー」を試用し、安全な水分摂取の実践に取り組んだ結果を事例を

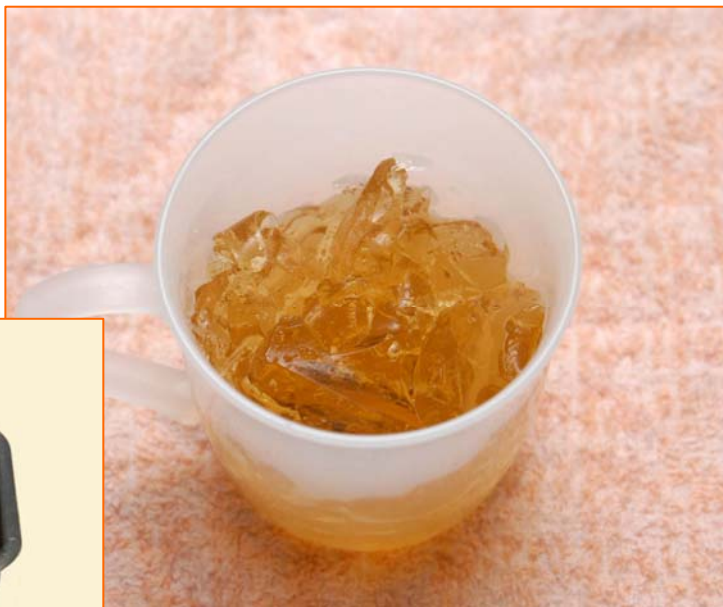
挙げて報告致しました。

最後に、協力して下さった多職種のスタッフの皆様方に感謝すると共に口演発表で「優秀賞」を受賞したことを御報告致します。

＊濃度 2 %のお茶ゼリーの具体的な割合

粉ゼラチン 20g＋水 100cc でふやかす。これにお茶 800cc を加える。

$20g \div (20g + 100cc + 800cc) = 0.0217 = 2.1\%$



病院の「理念」「憲章」「患者様の権利の尊重」について

病院のこころ、職員の姿勢を伝えることを意とし、平成10年6月病院建替え完成と同時に、下記の「理念」「憲章」「患者様の権利の尊重」を制定いたしました。患者の皆様やその関係者の方々等広くお知らせするため、病院玄関より各階すべてに掲示しております。日々の仕事のなかで実現できるよう努力しております。

理 念

患者の皆様が、安心して受診できる、やすらぎの環境及び満足と信頼が得られる最良の医療サービスを提供する。

憲 章

1. 私達は、「癒しの心」を医療の心として職務に専念します。
2. 私達は、患者様の人権と意思を最大限に尊重し、納得と同意に基づいた全人的医療を目指します。
3. 私達は、日々自己研鑽に励み、良質で温もりのある、地域に密着した医療を心がけます。
4. 私達は、地域医療体系に参加し各々の持てる機能の連携により、より合理的で効率的な良質の医療に努めます。

患者様の権利の尊重

- ◆ 患者様の人間としての尊厳を尊重し秘密を守ります。
- ◆ インフォームドコンセント（良く納得された上での合意）を基盤とし、信頼関係を確立します。
- ◆ 各科の有機的な連携を図り、高次で専門的な総合医療を行います。
- ◆ 癒しの心を持った、接遇、ケアを行います。
- ◆ 癒しの心を持った、入院環境、アメニティーの整備を心がけます。

代表 広島記念病院

TEL 082 (292) 1271

FAX 082 (292) 8175

庶務課

TEL 082 (503) 1001

病診連携室（医事課）

TEL 082 (503) 1003

FAX 082 (503) 1010

内科・外科

FAX 082 (503) 0722

産婦人科・小児科

FAX 082 (503) 0723

耳鼻科・皮膚科・泌尿器科

FAX 082 (503) 0731

4病棟

FAX 082 (503) 1014

5病棟

FAX 082 (503) 1015

6病棟

FAX 082 (503) 1016

7病棟

FAX 082 (503) 1017

8病棟

FAX 082 (503) 1018